

令和7年度第4回丹後震災記念館耐震化・利活用検討委員会
会 議 録

- I 開催日時 令和8年1月28日(水) 午後2時10分～15時30分
- II 開催場所 アグリセンター大宮 1階 視聴覚 AB ・農業研修室
- III 出席者 橋爪紳也委員長、岩田信一副委員長、岸泰子委員、西山峰広委員
味田佳子委員、泉真吾氏(余吾太士委員代理)
オブザーバー 吉田理氏、松井敬代氏、吉岡ひとみ氏
(※橋爪委員長、岸委員、西山委員、泉氏はオンライン出席)
- 事務局 松本明彦教育長、川村義輝教育次長
村田雅之課長、岡林峰夫課長補佐、奥勇介主任
- 欠席者 高岡伸一委員、牧紀男委員、檜秀憲オブザーバー
- 傍聴人 0人

IV 次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 基本計画案について [資料2]
 - (2) 丹後震災関連の取組報告 [資料3]
- 3 その他
- 4 閉会

V 議事要旨

1 開会

<事務局>

定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第4回丹後震災記念館耐震化・利活用検討委員会を開会いたします。開会にあたりまして、京丹後市教育委員会を代表して、松本明彦教育長が御挨拶申し上げます。

<教育長>

皆さん、こんにちは。第4回の丹後震災記念館耐震化・利活用検討委員会に、足元の悪い中御出席いただきましてありがとうございます。

京丹後市では先週、非常に多くの雪が降りまして、久々に40～50センチ積もったところが多かったのではないかと考えております。以前と違いまして、それぐらの雪でも生活の中で非常に混乱をしております。学校も先週の木曜日は休校し

ておりましたし、市内の作業場が一部倒壊したり、ある地域で断水が起こったりと、このぐらいの雪でも影響が出ている状況です。

そうした中、昭和24年1月26日に法隆寺の金堂壁画が焼失したことに伴い、文化財を火災から守るということで、市としても毎年この日に近い日曜日に、先週の日曜日だったのですが、文化財の防火訓練を実施していたのですが、今年は雪のため中止になってしまいました。

また、大雪と言えば、皆さん年齢的に御存じの方もいらっしゃると思いますが、「三八豪雪」という、この地域で2メートル近い雪が降ったことがありました。私も記憶は幼かったので残っておりませんが、皆さんの話では2階から出入りしたというような話も聞かせてもらいました。その三八豪雪において、峰山小学校で火事もあったらしいのですが、そうした火事や大雪にも、峰山小学校の鉄筋コンクリートの建築については無事生き残って、丈夫なまま今の姿をとどめているということで、当時としては本当に堅牢な建物だったのではないかと考えております。

地震におきましても、一昨年になりますが能登半島の地震があり、まだ爪痕も残って復興もままならない状況でもあります。今年も1月になってから島根県の方でも震度5の地震があるなど、日本では限りない大きな地震が毎年起こっているということもありまして、改めて丹後震災の100年が近づくこの時期に、防災ということを考えていく上でも、この会の果たしている役割も大きいのではないかと考えております。

今日は基本計画について、さらにボリュームをアップしたもので皆さんに御提示をさせていただこうと考えております。関連の取組報告も含めて、皆さんに忌憚のない御意見をいただきたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

<事務局>

ここで、いつもこちらにお越しいただいております橋爪委員長におかれましては、本日用務のために東京に出張されております。その関係で時間が少し遅れてからオンラインでの参加を予定されておりますので、御承知おきいただきますようお願いいたします。それまでの間は恐れ入りますが、岩田副委員長、よろしく願いします。

それでは副委員長より一言御挨拶いただけたらと思います。

<副委員長>

1月17日に用事があって神戸へ行ってきたんです。震災から31年になるんですね。直後は行っていたんですが、最近はなかなか行けてなくて、本当に何十年ぶりに行きました。

ちょうどその時というのは、うちの方の設計の建物がコンクリート打設したところで被災しました。逆にコンクリートを打ったところだったので、地下1・2階は

駐車場だったんですが、そこが避難所になったというようなことで。さすがに 30 数年経ちますので大改修しているんです。うちの方で管理もしていたので、また行かせていただいて、法要の方も参加させていただいて、当時の話を聞きました。さすがに 31 年経つと、もういろんなものが薄れてきているんですけども、大変だったんだなというのはよくわかりました。

その後、神戸の震災資料館、そちらにも行かせていただいて、当時の様子を見させていただきました。その結果じゃないんですけど、さすがに 31 年で神戸ってものすごく早いうちに復興しているんですね。前回のときにちょっと言わせていただいた能登の件、あれはまだ 2 年経過してもほとんど変わっていない。今からやっとな建物解体が始まったみたいな話で。それを見に行っていたので、特にその差、何が違うんだろうなど。そこにいろんなことが絡んでいて、復興されるどころと、進まないところがあると思っているんですけど、全然進まないというのも、その差が何があるんだろうっていうあたりは、ちょっと注目して見ていきたいなと思います。

特に丹後の場合は、能登に近い条件です。ただ、丹後震災の場合は、99 年前ですか、そのときにはすごい早い対応で復興したということもあったりしているので、そのあたりはどう見られているのかというのはあるかなあとと思います。

震災記念館ということで、より具体的に、今後の話の中でそのあたり、利活用についてまた深めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

<事務局>

ありがとうございます。

なお本日も Zoom を併用しての会議とさせていただいております。本日は先ほど申し上げました橋爪委員長は途中からの御参加、それから西山委員、岸委員、余吾委員代理の泉室長は Zoom での御参加ということでいただいております。また、高岡委員、牧委員より御欠席の連絡をいただいております。檜オブザーバーは現時点では参加されていませんが、後ほど入られると思っております。

続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。事前にお送りさせていただきました資料 1~3 が一部ずつお手元にあるか御確認をお願いいたします。

それでは早速ですが、次第に沿って議事を進めさせていただきます。これ以降の進行につきましては、副委員長にお願いしたいと思っております。

2 議事

(1) 基本計画案について [資料2]

<副委員長>

本日は概ね 15 時 30 分までを予定していると聞いております。円滑な議事の進行に御協力をお願いしたいと思います。

次第に沿って、(1) 基本計画案について事務局の方から説明をお願いします。

(事務局より資料説明)

<副委員長>

ただいまの事務局からの説明に関して、委員の皆様から御質問、御意見などありましたらよろしくお願いします。

<委員>

参考事例に京都の文化庁の建物がなぜ入っていないのかなと思いました。

<事務局>

調べて入れます。

<委員>

参考資料の図面ですけど、印刷資料だとコピーが薄いんですが、元はきれいですか。

<事務局>

元はきれいなのですが、線が細くて印刷した時に薄くなってしまったので濃くなるように調整してみます。

<副委員長>

図面は、耐震診断の時に使われた図面ですかね。たぶん、CAD図もあると思うので濃くできると思います。

ほかは何かございますか。

<委員>

類似した参考事例というのは、建設年代とかでしょうか。

<事務局>

これは鉄筋コンクリート造かつ既に文化財になっていて耐震改修がされたというところが同じものを記載しています。

<委員>

広島市の平和記念資料館も思ったのですが、年代が違うから入っていないのかなと思ったんです。

<事務局>

ありがとうございます。平和記念資料館も調べてみます。

<委員>

確か広島市がやっていたと思いますが、大変苦勞したという話も聞きます。年代が違うから入れていないのかなと思った次第です。

類例は大事なので、戦前に限るなど、どういう風に事例を集めるのか、今回の事例に合ったものをもう少し丁寧に集めていただくと、資料として充実したものになると思います。気付いたものがあれば御連絡差し上げますので、入れていただければと思います。

<事務局>

ありがとうございます。今、年代の縛りをかけていないものの、震災記念館に近い年代でということで調べたものを書いており、どこまで載せるか検討したいと思っています。

<オブザーバー>

豊岡にもいっぱいあります。町役場でも下に免震装置を入れてガチガチに改修しています。

<委員>

この計画の目的が具体的な耐震化と利活用のあり方ということになっているんですが、この事例は耐震化の方の事例かなと思います。利活用の方も何か事例があるといいかなと思います。それは新しくてもいいんですが、震災の記憶を後世につなぐためにどのような活用をされているかというところも大切になってくるかなと思っています。全国で網羅して全部を同じようなものを出すというのは難しいと思うので、主なもの、参考になりそうなものを載せられて、それ以外に利活用に関しても何かあるといいかなと思います。

<オブザーバー>

それでしたら TOYOOKA1925、元銀行の建物ですけども、今ホテル等になっています。

<事務局>

ありがとうございます。調べて修正するようにします。

<副委員長>

一つは鉄筋コンクリートの限界が60年プラスアルファというあたりです。多分100年前後で選ばれたのは、確かに限界を超えている鉄筋とコンクリートを耐震補強されて利活用されているという意味合いでこれを選ばれたのかなと思いついて見ました。

今回は、さすがに当時は耐震できているコンクリートの強度自身が、基準の13.5 (N/mm²) を下回るような数字になっています。だからその辺りも非常に興味はあるんですね。どう解決していくかというあたりは、さすがに13.5を切る建物で、京丹後市さんも小学校数件ありましたけど、やっぱり持たないですよ。要は補強かどうかっていうバランスで言ったら、もう建て直したらいいということになっているんだろうと思うんですけど、それをはるかに超える100年という建物ですよ。でもできるというあたりで重要な資料だとは思いますが、どうされたかというあたりがもう少し欲しいような気がします。

<事務局>

はい。耐震化と利活用と両方ともどんな感じでやっていたのか含めて、書けるだけ書いてみたいと思います。

<副委員長>

他には御意見、御質問等ありますでしょうか。よろしいですかね。ありがとうございました。皆さんの御意見を踏まえて、事務局の方で修正よろしくお願ひします。

(2) 丹後震災関連の取組報告 [資料3]

<副委員長>

それでは次の議事に移ります。次第の(2) 丹後震災関連の取組報告について、事務局から説明よろしくお願ひします。

(事務局より資料説明)

<副委員長>

ただいまの事務局からの説明に関して、委員の皆さんから御質問等ありましたらよろしくお願ひします。

<副委員長>

宮津の教会で3Dの計測をしたんですが、7~8年前の当時は非常に高額で、100万円ぐらい払ったと思うんですけど。その後の資料はそこから起こしました。震災記念館も、これで歪みなんかも本当は全部計測できるんですよ。宮津の木造教会

をやった時も、十字架が傾いているところも全部測定できましたんで、多分それに近いような状態で図面化できるんだらうなとは思いますが。特に装飾がついているような形は非常に難しいですね。

<副委員長>

巡回展示をされていて、途中ですが、どんな反応があったかというのを教えていただけたらなと思います。

<事務局>

展示パネルのところにQRコードでアンケートを設置してしまして、読み込めば答えてもらえるようになっているんですが、子供たちの反応がなくてですね、保護者さんの反応はあります。「この町がこんな状況があったんだなと振り返る良い機会になりました」ということでコメントはいただいています。学校の先生方から話を聞く中では、やっぱり子供たちが授業の合間とかで見てもらっているんですが、なかなかまとまって見る時間が取れていないというところがあるみたいで、そこをもう少し授業の中で見てもらおうとか、まとまった時間を確保できるようにしたいなと思っています。

<副委員長>

ありがとうございます。最終的にはアンケートをまとめられるんですかね。

<事務局>

最終的にまとめてまた見てもらえるようにしたいと思います。

<副委員長>

他の方、何かございますか。

<オブザーバー>

すいません。（基本計画）23ページの「今後の課題等について」というところで、「コア強度が少し良くなり」とかですね、全体的に良くなったという表現があります。これ前回副委員長が指摘してくださった通り誤差の範囲であると思いますし、鉄筋コンクリート造の性質上、良くなることはありえない。こういう表現をするとちょっと誤解を生む可能性がありますから、気をつけていただきたいなと思います。

それから最後のページの「山形市立第一小学校」、突然耐震化したわけじゃないんです。これ県内初の鉄筋コンクリート造の小学校だったんですが、雨漏りがすごかったです。屋根をかけています。それは1970年前後です。同じぐらいなので、おそらく現場打ちのコンクリートであまり良くないし、鉄筋もおそらく丸棒、そう

いう中で少なくとも今から 50 年以上前に雨漏りの対策はしていたというようなプロセスがあります。そういうプロセスが事例の中で示せたらいいのかなと思います。一気に耐震補強ではなくて、やっぱりその都度ケアをしながら現在に至ることがわかるようになった方がいいのかなと思います。

<副委員長>

すいません。1970 年ぐらいにということでしたら、ちょうど峰山小学校の屋根と近いですかね。そのあたりであれば屋根かけられたと思います。やっぱり鉄筋コンクリートの 1 つの目安ではあるんでしょうね。

<事務局>

峰山小学校の鉄骨屋根は平成 10 年だと思います。

<副委員長>

いや、それは改修されたので、元は違うと思います。私が小学校の時にはありませんでしたから。

<事務局>

橋爪委員長が今入ってこられたのを確認しました。

橋爪委員長、今から議事進行という形なんですけど、実は今、議事の 2 つ目がもう終わろうという段階です。

<委員長>

今日は前の打ち合わせが長引いたので申し訳なかったです。

議事進行、お任せします。今日、これまでで特に何か問題がありましたでしょうか。

<副委員長>

基本的には御意見ありました。部分的な修正とか追加っていうのはしていただくようになります。特に最後の方の類似物件ですね。その辺りをもう少し明確にするのと追加していただくというあたりが、意見としては一番多かったのかなと思います。

<委員長>

わかりました。ありがとうございます。後の進行もお任せしますので、最後までお願いいたします。

<副委員長>

わかりました。他には何かございますでしょうか。

<オブザーバー>

このタイミングがいいかわかりませんが、観光サイドから客観的なところなんですけど、保存活用するなら前提の中で、先ほどの利活用の部分、フィルムコミッションでちょっとやってみたいかなと思いました。戦前の建物みたいなものが全国的には結構貴重になってきていますので、こういったところを残してっていうのを推進しているそうです。改修工事をしてロケ地に選ばれると、来訪者数が増えたりということも前例としてあるので、必ず選ばれるわけではないですが、利活用っていう部分では並行してやっていくことの大切さがあると思います。

あとコンセプトの中、「基本方針1から3」の観点からも、市内外から来てもらうためのものを考えていくのを前提としていると思うんですけども、「行きたくなる場所」「ランドマーク化する」ためには、まずはこの場所の価値を高めることが絶対的な要素になると思います。立地が良くないので、ここまでわざわざ来る必要性という部分と、立地条件が良いコワーキングスペースが他にも京丹後市にありますし、駐車スペースとか入口のこととか、単に一部が展示室になることに満足感があるのかとか、現状、指定管理施設が窓口でやっていくっていうのはかなり難しいんじゃないだろうかというものもあるので。

このタイミングである程度はターゲットを想定してイメージを建物全体で作ることも必要じゃないかなと思います。例えば観光サイドとかはフィルムコミッションでロケ地誘致を行っていったらと思うんですけども、これ昭和初期の建物でしかないものになりますので、昭和初期をテーマに、ファッションだったりとか、この頃のモダンなもの、そういったところの撮影スポットでの誘致も一緒に入れて、内装のコンセプトをこの頃の良さを出して、あえて特化させて刺さる人に刺さればいいという方法もあります。

昨年度からの丹鉄の峰山・宮津線開通100周年など、いろんなところの地域の祭りと一緒にやっていくっていうのも1つかなと思います。ここだけしか撮影できない唯一のものは何かというのを一緒に探し出して、利活用を検討していただけたらと思います。

<副委員長>

耐震補強の形にはかなり影響するんだと思います。多分、中が重視されるか外が重視されるかという、両方のような気がするんですけど。

確かに映画等で使われたりというのが、例えば龍谷大学の宮学舎本館をよく使われるんですけど、補強要らないので、そのままですね。だからそのままやったらそういう形で使える。ただ、補強が露出してという話になってくるとどうしてもちょっと難しいのかなあと思うんですけど。ただどう補強するか、どう見せるかというあたりで、クラシックな状態を見せるというよりも、そういう形でまた次の世

代に向けて存在しているというあたりの良さみたいなんが出せたら、利活用というのがあるんだらうなどは思うんですけども。

木造は補強しやすいんです。そのままの形で利活用がやりやすい。さすがに鉄筋コンクリートは非常に難しいですね。

指定管理でいかれるのか、民間主体でいかれるのかわかりませんが、そこ次第なんですね。多分利活用の場合で成功するかって言ったら、どうしてもやっぱり与えられた考え方、押し付けられたみたいなイメージでは絶対無理ですよ。 「これで何とか儲けたらか」というぐらいのもんでないと、なかなかならないですね。文化財というものですしギリギリのラインを狙わないといけません。かなり大胆に活用していただける方をどうやって選ぶかという辺りなんでしょうね。

この会議ではその手前の「こういうこともできますよ」というあたりをどこまで盛り込んでいけるかというあたりだと思います。

<委員>

耐震化の方がなかなか専門的なことがわからないので、どうしても利活用のところも同時に考えていく必要があるかなと思っています。利活用については、この計画では「こういうこともある」というあり方を示すところまでの計画ということなんですが、この後、例えば整備委員会みたいなものがフローチャートでは立ち上がるということで、そこから先はそっちにお任せするという意味はあるのかなと思うんですが、検討委員会からこの基本計画の策定が同じメンバーでやってきたという流れがありますので、その先のことを考えたいなという思いはあります。耐震化できて終わりじゃなくてそこから始まりだと思っているので。耐震化の方法は大事でこの計画に反映するんですが、やっぱり利活用をどうするかはすごく大切で、耐震化だけでは100年後も同じことになると思います。

そんな中で、決まりではないんですけど、峰山高等学校の同窓会をしております。先日役員会で話していたときに、この記念館で峰山高校の生徒が、もう「峰山高校5号館」ぐらいな感じで、すぐ後ろからグラウンドのところから来れるので、よく行っていたんです。特に野球部はグラウンドが見えますよね。野球部の声も多分聞こえると思うんですけど、とても思い入れがあるので、峰山高校の同窓会として、この記念館を今後整備していくのであれば、何かできないかなというような話が出ていました。そういうこともあり、そろそろ利活用について機運醸成の面も含めていろんなところと連携していけばいいと思います。同窓会として正式に何かやりますと決まったわけではないんですが、そういう思い出のある場所だということ、何かしたいなという思いがあることはお伝えしたいと思います。

<副委員長>

耐震の件と利活用の件っていうのは、どっちが先かっていうあたりの話になってきたら、多分耐震は耐震なんですよ。だから、利活用が先行しないと本当は駄目

だと思えます。旧三上家住宅の場合も、耐震補強はこれからです。今先に利活用から始まって、それを踏まえた上で耐震でどうこうしてほしいという辺りがあります。先に利活用がなかったら、うまくいかないということになるんですね。そう言いながら並行してってということになるんだろうと思うんですけど。

他には何かありますでしょうか。予定した時間には近づいてきましたけど。いかがでしょうか。

それでは、御意見ありがとうございました。これで議事の方はすべて終わりましたんで事務局の方をお願いします。

3 その他

<事務局>

最後、その他ということで事務局から御案内をさせていただきます。

委員の皆様には調整をさせていただいたんですけど、この委員会が4回目で終わらず、5回目を追加させていただきたいということで、日程調整させていただいた結果、3月9日（月）の午後1時15分から2時45分、場所は同じくこの会場を予定しています。

5回目の会議でこの基本計画を完成させるということで、まだ基本計画の中書けていないところがたくさんあるので、その部分については5回目までの間で順次できたところを作成しつつ、追加できたところから順次メール等で委員の皆さんに見ていただきながら確認をしていこうと思っています。5回目が追加されるということになりますけど、どうぞよろしくをお願いします。

4 閉会

<事務局>

それでは副委員長ありがとうございました。

閉会挨拶ということで、委員長お世話になってもよろしいでしょうか。

<委員長>

ありがとうございました。

この間、良い議論ができました。この会議の立ち上げから申し上げていたと思いますが、私たちの検討は耐震補強がゴールではなく、耐震補強から始まるということになります。是非引き続き御一緒にできればと思います。

特に100周年の式典で、どんなメッセージを我々は出すのかというところが大事だと思っています。単に耐震工事をするというのを発表するだけではなく、耐震工事をした後この施設を地域の方々がどう使い続けていくのかということを発表する場になると思います。言葉的には利活用ということになってはいますが、耐震改

修したあとに 10 年、20 年、30 年と、この施設がどうあるべきかということ、市民の皆さんに御理解いただきながら、一方で私たちは地震、災害に備えるという思いを多くの方に共有していただける場所にしていかないといけないと思います。

次年度に入ると 100 周年の式典や記念事業をどうするのかというところ、この会議ではなく違う形だと思いますが、検討しないといけない時期に入ります。

3 月 9 日は最終回になります。最終の案を出していただいて確認する場になると思いますので、何か御意見があれば事務局に事前に意見をいただいて 3 月 9 日にはらせていただくという形になればと思いますのでよろしくお願いいたします。

3 月 9 日は大雪でないことを祈っております

<事務局>

委員長ありがとうございました。

それでは、これをもちまして令和 7 年度第 4 回丹後震災記念館耐震化・利活用検討委員会を終了いたします。皆様本当にありがとうございました。